

第530回遊佐町議会定例会一般質問通告書

令和元年5月定例会

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
1	2 番 松永 裕美 (一問一答)	<p>1. クアオルト遊佐の提案と鳥海山観光イベントについて</p>	<p>・病の緩和や予防の為、森林等の自然環境の中で保養するドイツ発祥の気候療法が各地で広がっている。他の自治体では「クアオルト」と呼ばれる保養地をつくり、森林浴やウォーキング等を開くことで町民の健康促進による医療費削減も狙っている。植物の観光コースも含め、遊佐町でも可能であると考えるが、町のご所見を伺う。</p> <p>・鳥海山ブルーラインが開通した4月から5月の10連休明けまでの今年の大平山荘売上実績は昨年と比較してどのようなか。ストレスの多い現代社会において誘客の一つとして、大自然に囲まれた鳥海山の展望エリアで低予算でできるイベントを来年のゴールデンウィークに向けて企画できないものか。</p>
		<p>2. 新庁舎建設庁舎内における標識(サイン)の提案</p>	<p>・庁舎を利用される町民の方が新庁舎内にとまどわぬよう、各課にたどりつくまでのサインはとても重要であると考え。</p> <p>天井から大きくつるすタイプでは万が一の地震の際にも不安であるので、一階建てという利便性も加味し、大きくわかりやすい色に分け、用事のある課へその道しるべをたどれば到着する方式を採用して頂けないものか。(床にペインティングする方式) 京都の地下鉄は、この方式をすでにとっており、とても便利である。コストも莫大にかからないと予測されるが、ご所見を伺う。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
2	1 番 齋藤 武 (一問一答)	1. 小学校の統合 議論は深まっているのか	<p>4月12日に教育委員会が「遊佐町立小学校適正整備に関する基本方針」を定め、この中で令和5(2023)年4月に町立小学校を1校に統合することを明記した。また、具体的な整備のあり方については「(仮称)遊佐町立小学校新校開校準備委員会」で協議するとしている。</p> <p>遊佐町立学校適正整備審議会の答申を踏まえたものとされているが、果たして議論は深まっているのか。</p> <p>例えば、①子どもにとって「切磋琢磨」のために統合が必要と言われるが、少人数では切磋琢磨できないのか。切磋琢磨とはそもそも人数の多寡や競争を問題にした概念ではない。②人口減少社会において、小学校はミニマムインフラとして重要度を増している。統合は移住定住促進策や遊佐高校存続運動と矛盾逆行しないか。③予定のスケジュールで進めば、現在の遊佐小学校に教室や駐車場等を増設しなければならない。教育環境に物理的余裕がなくなり、財政負担が無視できないが、正面から捉えるべき課題ではないか。等々の論点がある。</p> <p>統合を強引に進めれば地域の分断と活力の低下を招く。スケジュールありきではなく議論を深め、より時間をかけて合意形成を図るべきではないか。</p>
3	3 番 菅原 和幸 (一問一答)	1. 令和元年度の 主要施策について	<p>令和元年度版「遊佐町の主要施策」においては、重点プロジェクトとして5項目を掲げている。</p> <p>「遊佐パーキングエリアタウン推進プロジェクト」は、地域の拠点として、産業振興やエネルギー供給、防災機能の強化を図るとし、本年度施政方針でも高速道路の開通による地域の創生拠点整備のために、「(仮称)遊佐パーキングエリアタウン整備基金」を創設すると述べている。着手まではまだ一定の期間を要するとしているが、平成29年度立ち上げたとする「儲かる道の駅勉強会」等の状況、並びに今後のプロジェクトの展開スケジュールについて伺う。</p> <p>「健康いきいき高齢者支援プロジェクト」における「高齢者が持つ豊富な経験や知見を活かして活躍できる場づくり」は、平成29年度から3年目となる。</p> <p>高齢者のいきがいくりと社会参加の推進に係る具体的な事業について伺う。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
4	<p style="text-align: center;">4 番 筒井 義昭 (一問一答)</p>	<p>1. 人口減少が進む中での、町存続と町民の福祉向上に関する、町の考えは</p>	<p>町は移住定住施策の拡充や、子育てしやすい施策の展開を進めることで、人口減少抑止や子育て世代の福祉の向上を図り、一定の成果を上げてきた。</p> <p>しかし人口減少や少子化は想定よりも急激に進んでいることで、町全体の空洞化が進み、買い物難民や医療難民の課題も深刻な状況であることを踏まえ、町存続と町民の福祉の向上について、将来を見据えた町のお考えを問う。</p>